

## 平成22年度第1回新潟県公立大学法人評価委員会

### ～議事概要～

- 1 日時 平成22年7月16日(金) 18時～20時
- 2 場所 都道府県会館407会議室
- 3 主席者  
(委員) 田中委員長、青木委員、尾畑委員、坂井委員  
(県立大学) 熊谷副理事長、佐々木副学長、高橋事務局長 ほか2名  
(事務局) 本間総務管理部副部長、嘉藤行政改革推進室長、唐沢文書私学課長 ほか4名
- 4 次第
  - (1) 開会
  - (2) 議事
    - ア 平成21年度業務実績報告について
    - イ 平成21年度業務実績に関する評価について
  - (3) 閉会
- 5 議事概要

「○」：委員、「◇」：県立大学、「□」評価委員会事務局

- (1)平成21年度業績実績について ～県立大学高橋事務局長から説明後質疑～
- 何か特殊な事情があったというならわかりますが、個別項目について計画どおり実施できなかった理由を言い始めると評価委員会として評価ができなくなってしまいます。  
自分たちで決めた年度計画であり、見通しが甘かったという話になるわけですので、そのまま受け入れざるを得ないのではないかという気がします。
  - ◇ 留学生の派遣については、設定が高かったという反省をしております。短大時代の経験からいくと何とかできるのではないかという意味合いもありましたものですから、甘かったといわざるを得ません。
  - 事務局から補足ですが、留学生の受け入れと派遣の数字については、昨年度の議論の中で評価基準非適用の取扱いとしていました。ですので、例えば達成度5割であれば、どの評価になるということには決めておりませんでした。
  - それは本項目のみそういう留保条件があった、ということですか。
  - 今回のご指摘いただいたものの中では、教育GPの採択の数と留学生の関係です。  
事務局から説明をさせていただいたものでございます。

- ということは、ここにいる委員が、昨年度了承したということですね。
- そうです。
- このG Pと留学生以外の他の項目についてはありませんか。
- その他に新卒者の県内就職率等がございます。昨年度、これについては難しいものがあるなという話がありました。
- 新卒者の県内就職率は多ければいいのか、少なければいいのかはよくわからないから、それはなかなか難しいという議論は覚えています。ただ留学生については、こんなに高く大丈夫でしょうかと言った記憶はあるような気がします。
- はい。
- そういうことで、単純に 50%以下だからdではなく、一生懸命やったのであるから、色々事情があったからcというのが大学としての評価ということですね。
- 一般的なことを若干伺いたいのですが、いくつかのところで策定するといっていたものが策定できていないというものがありませんか。これらについては、21 年度計画に記載したものの、実際やってみるとこれではよろしくなかったのが計画自体を変えたかと理解すればいいですか。  
例えば、情報セキュリティについては、21 年度計画に「策定する」と書いてあるけれども、実際にやろうと思ったら、最初に情報セキュリティポリシーを策定することよりも、その前にすべきことがあるだろうと考えて21 年度計画自体を変更したという話でしょうか。
- ◇ 趣旨はおっしゃるとおりだと思います。
- ◇ ただ、現実的にはすぐに片づけなくてはならない問題がどんどん次から次へと出てくるものですから、例えば学生に何かあったので一斉に通知しなくてはならない。その時にメールを送信するわけですが、もしそこに学生の電話番号が漏れたということがあったら大変なことなので、まず緊急にそれを片づけなくてはならないという事情がありました。
- これは後で色々議論になると思いますけれども、1 年目ということで、そもそも21 年度計画という年度計画を書いて、それがどのくらい本当に実施可能なのか、ということはなかなか難しい問題があるのかもしれないですね。  
それならどうしてこんな年度計画をそもそも作ってしまったのかという意地悪な言い方もあり得ます。
- 21 年度計画に対しての達成度がどうかという側面と、6 年間の中期計画の中で、1 年目でど

れだけ進捗したのか、という観点から評価すべきだと思います。

7 ページに「県内外から推薦者を受け入れる」という年度計画がありますが、入学前の説明会を行ったから a という説明でした

そうすると、もともとこの年度計画の中には、そういうものが全然見込まれていなかったのかどうかということが、これだけではわかりません。そういうものを初めから見込んでいたのであれば a ではなく b ではないかという議論になる場合もあり、これだけではわかりにくいです。

◇ おっしゃる意味はわかります。実際に実施してみた時に、例えば、英語の学力が少し足りない学生が中にいるのではないかという事実関係が少しずつわかってきます。

すると、これは何か事前にやらなくてはならないのではないかという議論が内部から出てきますので、当然そういう意味では計画に修正がかかります。

このように実際にやってみてからというのがどうしてもございますので、致し方ないかなと考えています。そういう意味ではできるところは 1 つ 1 つ確実にやったということを認めていただけたらと思います。

○ 去年、年度評価における評価基準の策定のところで色々議論したわけですがけれども、事業評価というのは、a や s は滅多に出ないことが普通であるという評価基準になっていると思います。つまり b は年度計画を概ね実施しているから、b というのは「良い」なんです。上回るとかもしくは十分な実施というのは、5 年も 10 年も続いてできるはずはないものです。だから、b を格別低い評価であると思う必要はあまりないと思います。

ただ、昨年度指標評価を作った時の基準の作り方が、若干、事業評価とずれている感じがあります。つまり達成度 100% というのは、事業評価であれば概ね実施で b ですが、指標評価では a となる。指標評価で b というのは、達成度 80% 以上 100% 未満だから、目標に若干到達してなくても b になります。

その辺の感じからすると、b にするのか a にするのか、エンカレッジするのであれば a にしなければダメではないかとお考えになるのはそれなりに理解し得ますが、事業評価の観点から言うと、計画どおりにうまくいったのであれば b ではないかという感じになってしまうところがあります。

(2) 平成 21 年度業務実績に関する評価について

○ 委員の皆様からは、事前にそれぞれの評価私案をまとめていただいております。

まず法人の自己評価と評価私案の評価が同じ項目は法人の自己評価どおりでよいということでもよろしいでしょうか。

～委員全員了解～

<事業評価 年度計画の項目番号（以下同様）2「県内外から推薦者を受け入れる」について>

○ 入試前教育の実施や事前説明会での課題提供が、年度計画で定めた「県内外から推薦者を受

け入れる」よりも、よくやったという大学からの説明でした。

- 先ほどの説明では、実際に実施してみたら入学前教育とか説明会というようなことが必要だったとのことでした。ということは、最初は考えていなかったということです。

やってみたらこれではできなかつたので、途中で変えましたということはどう見るかということだと思います。方針を変えたけれども、全体の中期計画に対してそれがいい方向に前進しているということであれば、評価できるという考え方もあり得ると思いますが、このあたりがなかなか難しい。

- 最初に目安を説明頂いた時に、目標値の8割くらいで概ね達成と伺っていましたところ、その上でさらに何かをしたということが加わっていた時にはaになるというお話を伺いました。もちろんこれは自己評価の話ですけれども。

それで新潟大学ですとか他の大学の数値目標が高すぎるではないかという懸念を抱きましたが、他の似たような経緯で似たような立場にある大学が同じような数値目標を立てていて、同じように考えているのであるならば、新潟県立大学だけ低くするわけにはいかないのかもしれないと考えますので、自己評価どおりでいいのではないかと思います。

- 定性的なことについて8割でよろしいということではなかった気がします。この項目は定性的なものですよね。

どうでしょうか。県内外から推薦者を受け入れるということで、やってみたところ必要なことがわかったので実施したというのは、一般的に言えば良いことをやったのだらうと思います。自己評価どおりのaでなく、bではないかとしている委員がおられますが、aでもよろしいとなれば、aということになるのではないかと思います。いかがですか。

- 先ほど言ったように、やってみてこういう方法もあるということに気が付いて、さらに中期計画を達成するために別のよりよい方策を取ったということであれば、それは考えていないことよりも高いものを達成できたと理解できるのではないのでしょうか。

- これは自己評価と同じ評価とするということでいかがなものでしょうか。

～委員全員了解～

<項目番号 21「入学時オリエンテーション」について>

- 学生が「履修計画を立てるために必要な情報を提供する」というのが年度計画です。

シラバスを配布しただけであればbかもしれないが、電子シラバスの作成や大学ホームページへの公開により情報を得やすいように対応したということが特筆すべき点であり、aだという大学からの説明でした。

- 中期計画では「学生が学習目標を設定できる」としているので、学生がそれをどう評価して

いるかということを知りたかったのです。

大学当局はやりましたということは書いてあるけれども、学生側の評価はどうなっているのか、それをどう分析したかということがわかりにくい。中期計画の中でどういう進捗をしたかというのが、重要な評価になるのではないかと思います。

- その観点でいうと、十分な説明がされていない。
- 電子シラバスについては、どんなものを作ったのかということは聞いておくべきだったと思いました。
- 本項目の評価に当たっては説明が必要とのことですが、他の委員の方は自己評価どおりでよいのではないかとことですが、いかがいたしましょうか。
- 私はbがよいと言っているわけではございません。
- そうすると、特に来年度以降のことを考えると、業務実績に関する報告書の書き方の問題になってくるような感じがします。  
報告書を細かく書きなさいというのは、あまり言いたくはないのですが、本項目は自己評価どおりでよいけれども、もう少し分かり易い書き方をしていただけると評価しやすいということですね。

～委員全員了解～

<項目番号 23「マルチメディア機器の利用・整備」について>

- 計画どおり実施しただけではないかとの委員からのコメントであります。  
それに対して大学は、年度当初はほとんどゼロだったものが、実際は全部やってしまったので、これはaではないかという説明です。  
それならそのように業務実績に書いてくださいという感じがします。本当にそうなのであればaでよいと思うのですが、よろしいですか。

～委員全員了解～

<項目番号 32「教育に関する自己点検・評価等の体制の整備」について>

- これについては、34番と35番と関係してきます。委員からは、32番は整備するという計画に対して整備した、34番は検討するという計画に対して検討した、ということなのでbではないかとのコメントが付けられています。  
これに対して、かつてはこういうものは殆どなかったもので、整備しただけでも大変重要なのではないかという大学の説明でした。

○ これも難しいところです。難しいという意味は、32～35番と個別に分けて目標立てされており、先ほどの説明も35番のところがよくできたという説明でした。

確かに35番については、授業評価アンケートをやり、それを全部ホームページに出して、みんなに見られるようにしたというのは年度計画で定めたことよりは優れていると思いますが、35番がよいので32番も34番もaになるというのは、何となく変な感じがするのですがどうでしょうか。委員の多数が自己評価どおりでよいということであれば、多数のご意見でよろしいと思いますが。

○ 「整備する」ということは、文脈によって意味合いを検討しなければならないですけれども。

○ ただ来年のことを考えると、中期計画の24番の内容を年度計画では4つの項目に分けていることが何か不自然ではないかという気がします。

○ 皆さんaでよろしいということであれば、32番と34番は法人の自己評価どおりということですね。

～委員全員了解～

<項目番号41「学内無線LANの効果的な設置」について>

○ 計画どおり実施しただけではないかとの委員からのコメントです。

○ これも、自己評価のところでもう少ししっかりと書いて頂けると、aでよいのではないかという感じがします。つまり無線LANをやるといったけど、この部分くらいしか出来るつもりではなかったものが、実際にやってみたら全部できたという話です。だから当初計画よりよくできたということです。

○ 委員の多数は自己評価どおりでよいとしているので、自己評価どおりでよろしいでしょうか。

～委員全員了解～

<項目番号46「学生の定期健康診断を徹底する」について>

○ 計画どおり実施しただけではないかとの委員からのコメントです。

○ 先ほどの41番と同じだと思います。要するに全域に実施して整備したとか、これは全員が健康診断を受けたという、そこにインパクトがあるというか。書き方なのでしょうけれど。

○ 実は私が厳しく言うておまして、年度計画にそもそも学生の定期健康診断を「徹底」すると書いてある。単に「実施する」と書いてあるのではなく「徹底する」と年度計画で書いていて徹底したわけですから、これは計画どおりなのではないかということです。

- いや、徹底するという計画であるけれども、徹底した結果として、学生が全員健康診断に応じたということではないでしょうか。
- 学生の健康診断を全員に受けさせるというふうには書いてなかったという違いなのではないでしょうか。
- 徹底するということは、それを学生の皆さんに周知させるということだから、しなくてはダメということです。  
その結果全員が受けたということであれば、必ずしもbではなく、aでもいいのではないのでしょうか。
- 徹底した結果として、そういうことではないでしょうか。
- 徹底すると言うからにはbではないかと当初思いましたが、電子メールで個別に受診を促すといった取組など、ここまで親切な大学はあまりないと思いました。それがさらに追加して行ったということが言えるのであれば、aでもいいのではないかと思います。書き方の問題かなと思います。
- 「徹底する」をどう解釈するかという問題としました。逆に、ではどうしたらaになるのかということを考えると、全員が受けるというのではないのでしょうか。  
やはり書き方にちょっと問題があったのではないかという気がします。結果を見ると、これはaとしてもいいのではないかと思います。

～委員全員了解～

<項目番号 57「高大連携事業のあり方及び実施方法の検討」について>

- 「高大連携事業のあり方及び実施方法を検討し、開拓を図りつつ連携に必要な学内外の体制を整備する」という年度計画に対して、大学側は、ちゃんと整備しただけではなく、たくさん実施したのであるからaでよいのではないかと思います。
- 具体的に何をやったのかを説明してくださいという委員からのお願いに対して、大学側から説明がありましたので、自己評価どおりということでもよろしいでしょうか。

～委員全員了解～

<項目番号 61「公開講座の実施方法の検討」について>

- 講演会などの回数を明記して欲しいという委員のお願いに対して、大学側から説明がありま

したので、自己評価どおりということよろしいでしょうか。

～委員全員了解～

<項目番号 83「学内施設の利用状況の調査、適正化のための指針のとりまとめ」について>

○ 「学内施設の利用状況を調査し、適正化のための指針を取りまとめる」という年度計画に対して、委員からは取りまとめは実施されていないのではないかと意見です。

○ 自己評価では、取りまとめの対応を今後行うとしている。先ほどの説明でも取りまとめは実施していないとしており、それは理由があったからだということです。

増築棟の建設や3号館の検討等それ以外のことをやらないうちに取りまとめを行っても仕方がないので、取りまとめをやらなかったということです。

○ 形式的に言えば、これはつまり年度計画を変えたという話ですよ。適正化のために指針を取りまとめるとしているが、それをやっても仕方がないという話でしょうね。こういうのはどう考えたらいいのか。

○ つまり21年度計画としてみると、これはやっていないという話ですよ。

□ それについて補足ですが、現在、施設は県の所有となっています。土地は大学に引き継いでいますが、建物が県のものという状態の中で県がどの程度やってくれますかという話があります。そのため、なかなか整備ができず、やっていないということになっていると思います。

ただ、整備をしないということではなく、今申しあげましたように将来的には整備を計画しているということがございますので、まったくやらなかった、というよりは今それを考えている最中であるということがございます。

○ それは、概ね計画を実施しているということでしょうか。

○ ここまで年度計画を変えられてしまうと、本項目について評価委員会は評価をしないということもあるのかなという感じがしないでもないですけどね。

○ 年度計画に対して方針を変えてやってみたら、年度計画で考えていた時より、もっと色々なことが出てきたのでそれを取り入れたというような場合は、目標に対していいことをやっているわけだから、それはよいのですけれども。

このケースみたいに元々やるといういて、ただ1年も先送りしたということになると、それでは思いどおりやったのかなということといわれると本当かなという考え方になってしまいます。

○ 増改築の計画自体は、年度計画を作る時もあったのですか。

□ 21年度にはこういうことをやりましょうという計画はあったのですが、それがその年度末には少しその予定が変わってしまった、1つの年度の中で変わってしまったということです。

○ 変わってしまったことの原因というか決定は、県側であって大学側ではないわけですね。

□ そうです。

○ そうであれば、ある計画を作ったけれども後発的履行不能に陥ってしまった。それに寄与する形で大学は動いていないので仕方がないと解釈することもできるのではないのでしょうか。ちょっと無理があるかもしれませんが。

○ やむを得ない事情だということですね。

○ やむを得ない事情が生じたことに、大学側は寄与していないのではないかとということです。学生アンケートは一応実施している。実施したということは、答えもあったはず。それを整理したところで、今のところ有効でないと思ったので指針取りまとめを先送りにした。

○ そのように解釈するとbということですかね。よろしいですか。

～委員全員了解～

<項目番号 85「学生や教職員が遵守すべき行動規範の策定」について>

○ 「学生や教職員が遵守すべき行動規範を策定する」という年度計画に対して、教職員が遵守すべき行動規範は策定したが、学生については便覧で対応するとのこと。

それから学生については、自主性に期待して自治会の立ち上げ等に努力しているということです。学生の行動規範は学生に任せておいていくということですね。

委員からは、2つ作るとしたものを1つしか作っていないのであるから、bにならないのではないかとご意見が出されていますが、これについてはいかがでしょうか。

○ 改めてこのキャンパスルールというものを読みますと、これでは足りないかなと思いますので、ここはcではないかと思います。

□ 先ほど、大学側が非常に前向きな自主性を重んじる取り組みをやる予定と説明されましたが、それについて自己評価の中に何の記述もないというのが少し気になります。そういう書きぶりにしてあれば、随分違ったような気がします。

○ 中期計画では、「学生や教職員の規範について行動規範を策定するとともに」と書いてありますが、そのところがやや曖昧な感じがします。

中期計画に、大学の方針として学生に対し文章による行動規範を押しつけるよりは自主性に期待し、それによってより高次の規範を身につけさせるから大した行動規範は必要ないなどと書いてあれば、話はわからなくもないですが。

そんなものは書く必要がないのだというフィロソフィーであれば、それはそれでそういう感じもするのですが、どちらにも策定すると書いてあります。

- 明確にするべき行為が決まっていますから、これはcでも仕方ないのではないのでしょうか。
- 学生便覧には、倫理やモラルとは関係がない要素も入っているような気がします。
- 職員行動規範は確かに作られてはいるのですが、やや厳しいことを言うと、現在の様々な大学等で策定されている行動規範の項目からすると、もうちょっと必要な感じもしないわけではないです。ここは先ほどのような年度計画を変えたというようなものでもない感じがしますが。
- 厳しい言い方をすると、計画の変更が必要になることが現実にはあり得ると思いますが、来年度に向けてもう少し熟慮した上で計画を作ってくださいというメッセージを伝える意味でも、ここはcとしてはいかがでしょうか。
- この小項目は全部公表されるのでしょうか。
- 最終的には公表になります。
- 全部公表されるのですね。全体評価はこれをもって決まるわけじゃないから、aがあるならcがあることは、そんなに不思議ではないですね。
- 小項目の評価結果を勘案して大項目評価が出て、大項目の評価結果を勘案して全体評価となります。
- 行動規範を策定するとしていながら、学生便覧だけで対応していますというのは、違うのではないかという感じがします。cが妥当と思います。

～委員全員了解～

<項目番号 88「情報セキュリティポリシーの策定」について>

- 「情報セキュリティポリシーを策定する」という計画に対して、実績は継続的に取り組むなっています。
- これだけ明確に策定すると書いてあるのに策定してないというのは、やはりいかがなものかという感じがします。

ただ中期計画では、「大学での取り扱う個人情報の保護に関する規程を整備するなど、情報セキュリティ対策を講じる」としており、中期計画に関する面で言えば、21年度は個人情報の保護をまず優先的に扱ったということ自体は間違っていないと思います。

○ 業務実績に関する報告書の記述自体も公表されるのですか。

□ 公表されます。

○ そうすると、年度計画で情報セキュリティポリシーを策定するとしている一方で、実績では継続して取り組むこととしたとなっていると、評価委員会が本項目をbと評価するというのは、なかなか難しいですね。

○ 計画の変更が、当初の年度計画よりも効果があるということが大前提となりますが、策定するとした年度計画に対して、評価委員会の評価欄にきちっとそういうものを明示すれば、読む人はわかると思います。

何も効果がなくてただ計画を変えましたというのは、明らかにbではなくてcということになると思います。それよりも効果があるものが見つけられたので、中期目標に対して進捗度が早くなっていく、ということを手前に表現するようでない、なかなか納得してもらえないのではないのでしょうか。

○ 法人の自己点検・評価の欄も公開されるのですか。

□ 公開されます。

○ そうすると法人の自己評価と委員会の評価は両方公開されるということですか。

□ 両方とも公開されます。評価が異なる項目についてだけ、自己評価と評価委員会の評価理由が並記されます。

□ 大学の先生方も年度計画が色々な事情によって変更されることがあり得るということは十分承知だと思います。ただ、自己評価の内容を説明させて頂く前に、この部分は少し自主的に変えていますなどという説明がないと、そういう手続きがちょっと足りなかったのかなと思っているところです。

○ 計画に書いた部分がうまくいかなかったということであれば、ここはやはりcにせざるを得ないのかなという気がします。

○ 先に個人情報の保護に関する規程を整備したことが、情報セキュリティポリシーの一部であって、それをもって概ね実施したと思い、bのままではよいのではないかと最初は思っていました。

た。しかし、そうではないようですから、ここはcにせざるを得ないと思います。

- 同情すべき点があるとすると、情報セキュリティポリシーというのはいかなるものなのか、ということについて、大学としてまだ十分検討がそもそも進んでないのかなという感じはしますね。

1 つ言えるのは、年度計画に「情報セキュリティポリシーを策定する」と書いてしまったこと自体が間違いであったという話ではないかという気がします。書いてしまった以上は、やはりcではないかと思います。

～委員全員了解～

<指標評価 項目番号 10「教育GP等採択件数」について>

- 次は指標評価です。GPですが、委員からは、1 件の採択ではsではないのではないかとこの意見が出されています。GP等の採択件数というのは、目標値がそもそもなかったのですか。

□ 中期計画の6年間で各学部1件ずつ、計2件が最終目標です。

- 6年間で2件が最終目標で、もう最初の年に1件採択されたからこれはすごいことだという話ですね。それは確かにそうだと思いますので、sでいいですか。

～委員全員了解～

<項目番号 11「留学生受入・派遣数」について>

- 委員からは、単純計算すると5割しか達成していないのであるから、機械的に考えるとdではないかとの意見が出されています。

□ これが昨年度の委員会に提出させていただいた、評価基準を単純には適用しない非適用項目の一覧です。

この一番下に留学生の受入と派遣の数があります。目標を達成すればbですが、それ以外のc・dについては目標値との乖離状況や取り組み状況を勘案し評価することしか決めておらなかったというところがございます。

- bは、先ほど言ったように、aがあればcもあるだろうという程度の話ですが、dということになると、ちょっといかなものかという印象を与えますね。

ただ、単純計算すると5割であるということは間違いのないから、これをcにすることというのは、評価委員会としてみると、それなりにやむを得ない事情がありこうなってしまったということでもcにしたという説明をしなくてはならないです。

- 評価がぽっと出てくると、何を計算したのだろう、どういう評価をしたのだろう、と見た人

は考えると思います。何かコメントがないとなかなかわかりづらいのではないのでしょうか。  
自己評価と評価委員会の評価が同じ場合は、評価理由を書かないわけですよ。

- 評価委員会の評価がcだとすると、法人自己評価と同じになります。同じになった時に理由を書かないこととすると、なぜ自己評価どおりでいいとしたのかがわからなくなってしまう。  
やはり同じ評価であっても、評価委員会としてのコメントを付けなくてはならない。  
インフルエンザは、あまり理由にならないのではないかと思います。どちらかという、言い方を厳しくすると当初の計画が甘かったという話ですよ。先ほど大学から説明のあった「いくつかの理由を勘案するとcである」ということでしょうか。

～委員全員了解～

<項目番号4「査読付き論文の定義」について>

- 査読付き論文の定義についての説明という委員からのお願いに対して、先ほど説明がありましたので、評価は自己評価どおりということで。

～委員全員了解～

<項目番号2「公開講座の聴講者数」について>

- 自己評価のaに対して、委員からはsではないかという意見が出されています。
- このくらいの実績であれば、他の項目とあわせる意味でもsでいいのではないかと思います。ただ、全くこだわるものではないです。
- 年度計画に記載していることが実施できなかったからcとしている以上は、実施できたのであれば評価をしてあげないと具合が悪いのではないかという気がします。  
この数字をみると、これはsにしてもいいのではないかという気が今はしています。

～委員全員了解～

- これで全部見たと思いますが、評価結果を確認させていただきます。  
事業評価ですが、年度計画の項目番号でいうと、2、21、23、32、34、41、46、57、61、83が自己評価どおりです。85、88は、自己評価bのところ評価委員会の評価はcです。  
指標評価は、教育指標の10、11は自己評価どおりです。地域貢献指標の2は、自己評価aのところ評価委員会の評価はsです。  
先ほど、評価委員会の評価理由は自己評価と異なる場合のみに書くとの話でしたが、そうではないやりの方がよさそうな感じです。と言うのは、法人の自己点検・評価の欄を評価委員会の意見を受けてこれから修文してもらうことはできません。  
そうすると、この法人の自己点検・評価だけを見た人からすると、腑に落ちないというのが

出てくる可能性があるわけです。それは評価委員会の評価理由欄に書いておいてあげないと、具合が悪いかなという感じがします。

評価を下げた項目の理由も書くけど、法人の自己点検・評価の記述と評価委員会の評価が乖離しているように見えるところは、評価委員会の評価欄で、その乖離が実はそれなりに納得できる理由のものだ、ということを書いておかなくてはならないですね。

その辺の評価理由等の書きぶりにつきましては、委員長と事務局で相談させていただいて書く、ということでご一任頂けますか。

～委員全員了解～

以上で、本日の議題は終了しました。本日の委員会はこれで終了します。